

# C-labo NEWS

2020.11  
Vol. 12



JR 常磐線富岡駅 乗降客無し、車両に殆ど人影無しの特急ひたちを見送る (2020年6月17日)

Contents	page	page	
「ずっと放射能とお付き合いをしなければ ならないのですね！」 大沼 章子	2	太平洋セメント藤原工場（三重県いなべ市） 周辺の土壌放射能測定と工場敷地境界の空 間放射線量率測定 阿部 里香	12
福島第一原発の放射能汚染水を放流させては いけない 大沼 淳一	3	2020 東北ツアーに参加して 中村さんちの農業体験 藤本 志津子	14
2020 東北支援—援農と放射能測定 大沼 章子	7	スタッフ紹介 初めまして 山田 有希	15
高レベル放射性廃棄物の処分問題 大沼 淳一 安藤 直彦	10 10	C-ラボ 9 周年報告会のお知らせ	16
名古屋高等裁判所の控訴審に向けて 岡本 早苗	11	函説 17 都県 放射能測定マップ+読み解き集が バージョンアップ! 16	16

# 「ずっと放射能とお付き合いしなければならないのですね！」

大沼章子

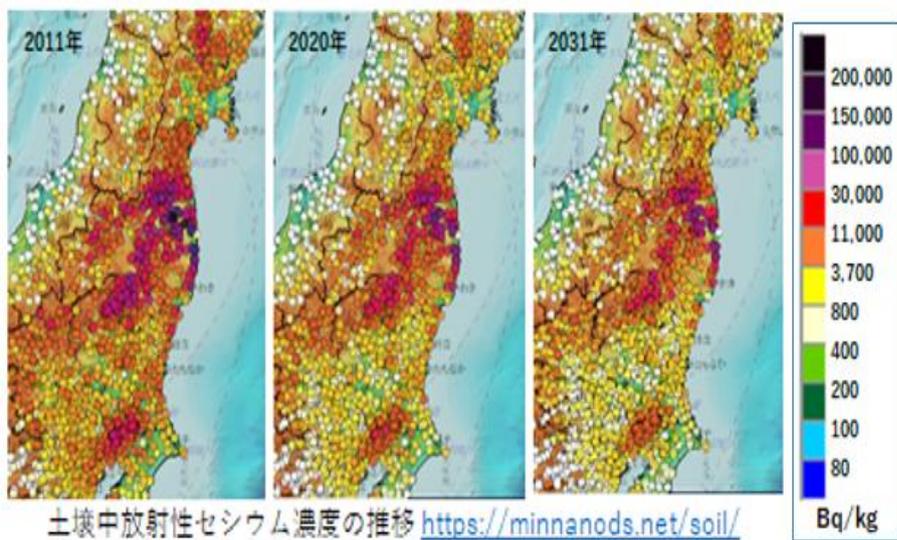
森友・加計・桜を見る会、検察庁法案と続いた安倍首相の傲慢な振る舞いは目に余るものがあった。しかも、その姿勢は正されることなく、次の管首相に引き継がれた（2020/9/16）。そして就任間もない今、果たして、日本学術会議会員候補の任命拒否を強行した。学問の自由・独立・平等が侵されようとしている。政権が学問の世界にまで、人事権を傘下に置こうとしているのだ。それでなくとも、福島第一原発事故問題や原子力行政では、御用学者・ムラの学者が重宝されている現状は続いている。

そうした中でも、7月29日広島地裁（高島義行裁判長）は、いわゆる「黒い雨訴訟」で、広島原爆の被爆影響範囲は国のいう大雨・小雨地域よりも実際の降雨範囲は広いと断定し、原告84人全員の訴えを認めた。また、9月30日仙台高裁（上田哲裁判長）は、生業訴訟の控訴審で、国が敷地の高さを超える津波を2002年にはすでに予見でき、対策工事で事故を防ぐ指導を怠ったことや、国の中間指針に基づく賠償額は不十分であることを認め、福島第一原発事故当時、福島、宮城、茨城、栃木4県に住んでいた約3650人の訴えに対して、控訴審の高裁で初めて東電のみならず国の責任を認めた。これらの判決は、真つ当な判決ではあるが、今後の展開はまだまだ予断を許さない。ただ、印象深いのは、三権分立が危ぶまれる中、後者の生業訴訟では高裁初の現場検証が実施され、裁判官が直に生業を捨てざるを得なかった人々の避難元の惨場を目の当たりにし、生の訴えを聞いた事だ（2019/5/27）。また、C-ラボが全国の市民放射能測定所の仲間と一緒に取り組んだ「みんなのデータサイト 東日本土壌放射能測定プロジェクト」の結果でも明らかなように、原発事故による放射能汚染が県境や行政境界で止まるわけではないのに被災者支援や復興支援が福島県や福島県の特定の行政区のみに限られてしまっていた枠を超えて、他の地域や他県の

原告の訴えもが認められるようになったことが、若干の希望であった。

さて、自然由来のCOVID-19とのつきあいは、ワクチンやモノクロー抗体などの予防薬が安定的に広く使用できるまで、数年は続くと言われている。宮坂氏（大阪大学免疫学）の言う「三密を避け、マスク着用、生活のリズムを大事にして免疫力を維持、体を動かす、正しい知識を得て筋道を立てて考える習慣をつける」を心がけたい。数年後には、インフルエンザのように、今年は何型のコロナかしらと、そんな日常がくることが予想される。一方、人工由来の放射性セシウムは半減期が2年のセシウム-134が消えても、半減期30年のセシウム-137は長く環境中に残る。東北支援で南相馬市の農家の空間線量率を測定したが、除染後であっても、ホットスポットの存在に「ずっと放射能とお付き合いしなければならないのですね」との覚悟とため息が聞かれた。再び、誰もがこうした覚悟をする必要の無い暮らしを選択したい。にわかには高レベル廃棄物処分場の誘致合戦が始まったが、豊かな自然こそお金には替えられない宝だ。核のゴミを出さず現有位置に留める廃炉方式の構築を望みたい。

C-ラボは、COVID-19下も粛々と「測定」を続けます。栽培野菜の検出は殆ど見られなくなりましたが、山野のものは注意が必要です。気になる食品・土壌等をお持ち下さい。



# 福島第一原発の放射能汚染水を放流させてはいけない

大沼 淳一

破滅的事故を起こした福島第一原発では、たまり続ける放射能汚染水が120万トンを超え、それを収容しているタンクの増設余地がひっ迫しています。このため政府（経産省）と東電は、増設余地がゼロになる2022年夏までには汚染水の処分をしなければならぬとし、そのための最も安価で安易な海洋放流をねらっています。安易な方法だとはいっても、放流のためにはそのための施設の建設が必要であり、遅くとも来年早々には方針の決定が必要となります。この時点で、私たちも改めて汚染水問題についての理解を深め、安易な放流を許さず、適切な処分方法を知っておく必要があるでしょう。

## 1. そもそも汚染水とは何か

福島原発事故が起きて炉心が溶融し、水素爆発によって大量の放射能がまき散らされましたが、溶融炉心に残っている放射能のほうはずっと多いのです。この炉心を冷やすために今も冷却水が送り込まれています。炉心と接触した冷却水は汚染水となります。さらに、原発サイトはもともと阿武隈山地から太平洋へと向かう地下水が豊富な場所で、この地下水が壊れた原子炉と接触して汚染水となるのです。二つの合計発生量は無対策時に500~800トン/日でした。この汚染水を汲み上げて、ALPS（多核種除去装置）で処理してタンクに貯めているのです。

汚染水を減らすために、地下水の上流側で地下水を汲み上げたり（サブドレンという。この水にも低濃度とはいえ放射能が含まれている）、350億円もの国費を投じて凍土壁を建設したりしています。凍土壁の効果は疑問視されていますが、ともかく大雨が降らなければ170トン/日まで下がってきました。このペースで今後2年間に発生する汚染水は、単純計算で約13万トン。東電の処理水ポータルサイトには汚染水総量が速報されていて、2020年9月時点で123万トン（タンク数1044基）、最終可能容量137万トンとされていますから、

やはりタイムリミットは2年後に来ることになります。

## 2. 誰も信じていない40年廃炉プログラム

壊れた4つの原子炉を片付けて更地にするまで40年という政府が発表した廃炉プログラムを信じている人は皆無でしょう（最近「更地」ではないとしているが、何がゴールかは示されていない）。事故を起こしていない東海村の再処理工場の廃止プログラムでさえ70年かかるとしているのですから、まして、溶融炉心の状態さえまだつかめていない原子炉を、残り30年でなんとかできるはずもありません。昨年から今年にかけて、倒壊の危険があった排気筒を半分切り取る工事がありましたが、手違いの連続で半年もかかりました。

しかし、様々な局面で「40年プログラム」が口実にされています。汚染水タンク群も、廃炉プログラムの邪魔になるし、30年後（すでに10年経過）に廃炉が完了したときに汚染水が残るのではまずいといった文脈で使われています。第一原発の敷地の見取り図を見ると、北側に「土捨て場」と書かれた広い空き地があります（図1）。7号基8号基建設予定地だったところではここにタンクを増設すればよ



【図1】東電福島第一原発敷地見取り図

いはずですが、廃炉工程で撤去したものの置き場に使うから駄目だというのです。しかし、溶融した炉心を取り出せるとでも思っているのでしょうか。取り出したとして、ここでどんな保管方法を採用するのでしょうか。要するに海洋放流のための言い訳に過ぎないのです。

### 3. タンク増設余地は十分にある

福島第一原発の敷地に隣接して中間貯蔵施設用地 16 平方キロがあります。原発敷地の 4 倍です。経産省汚染水問題タスクフォースのもとに設けられた ALPS 小委員会で委員の一人がこのことに気が付いて発言したところ、中間貯蔵施設用地として地権者から買ったり借りたりしている土地だから転用はできないと即座に言われたそうです。ところが、地元大熊町には、タンク増設用地に使ってくれてよいという地権者が複数存在することが地元町議から伝えられています。経産省は、なにがなんでも海洋放流したがついているとしか考えられません。

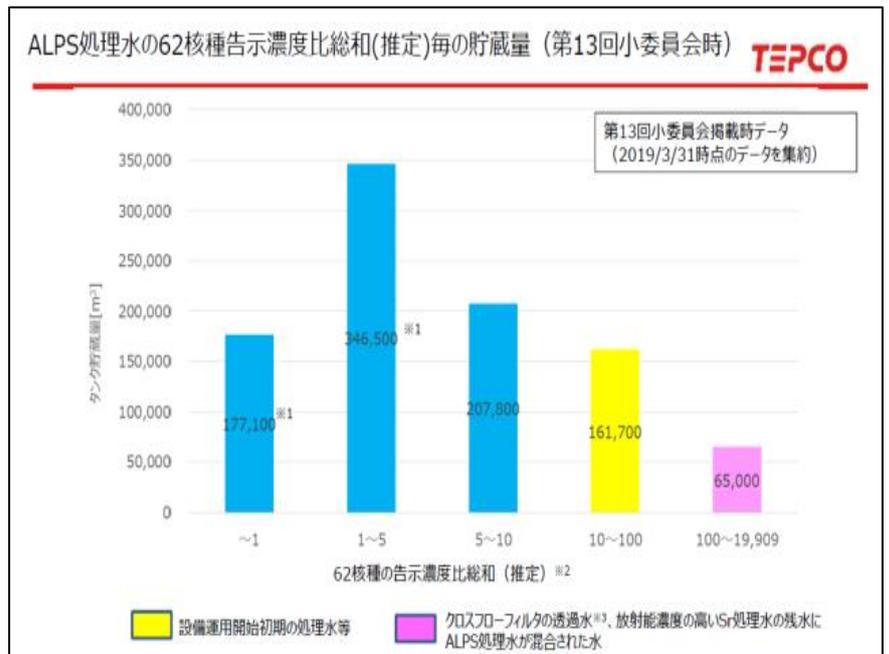
原子力市民委員会はモルタル固化案と石油備蓄基地で実績のある 10 万トン級の大型タンク案を提案しています。123 年間待てば、トリチウムは 1000 分の 1 に減衰するのです。事故炉も大量の被ばく労働を伴う現在の廃炉プランを捨てて、コンクリート固化による石棺として少なくとも 100 年間待つべきであることを提案しています。

### 4. トリチウム水でなく汚染水と呼ぶべき

水素(H)は原子核に陽子が 1 個だけですが、重水素(D)はこれに中性子が 1 個加わり、トリチウム(三重水素、元素記号は  $^3\text{H}$  ですが多くの場合 T と書かれます)は中性子が 2 個なので、3 倍も重い水素です。重水素は放射線を出しません、トリチウムはベータ崩壊してヘリウムに変わります。半減期は 12.3 年です。化学的性質は水素と同じなので、酸素と結合した HTO は普通の水  $\text{H}_2\text{O}$  とほとんど同じです。このため、水に混じった HTO を分離す

ることは困難です。汚染水を ALPS で処理しても除去できません。この ALPS で他の核種が除去されて、残っているのは分離ができないトリチウムだけだとして、政府や東電は汚染水のことをトリチウム水と呼んでいます。

ところが、東電が発表した汚染水分析データを調べてみると、タンクに保管されている汚染水のうち約 80%が、トリチウム以外の多くの放射性核種が原子炉等規制法に定める基準値を超えて含まれていることが分かったのです(図-2)。グラフの横軸は、「62 核種の告示濃度比の総和」で、縦軸が汚染水の量です。横軸の意味は、62 核種ごとの実測値 (Bq/L) を核種ごとの排出基準で割り算したものの合計値ということです。どれか一つでも基準を超えればアウト



【 図 2 】

ですが、すべてが基準以下でも、割り算の合計が 1 を超えたらアウトということです。このグラフを見たらわかるように、セーフ(合計値が 1 以下)の水が全体の約 20%に過ぎないことがわかります。例えばストロンチウム 90 などが基準値の約 2 万倍にあたる約 60 万 Bq/L も含まれているタンクもあるのです。東電は ALPS にもう一回かけて浄化していますが、1 回目であまりうまくいかなかったものがきちんと処理される保証はありません。なお、2020 年 9 月の東電の発表では、基準合格の処理水が増えて

27%となったとされていますから、基準不合格は73%になったこととなります。

さらに、今年（2020年）8月になって東電は、これまで汚染水についてトリチウム以外の62種の核種を調査してきましたが、そのリストになかった炭素-14（C-14）がかなり含まれていることが分かったことを公表しました。何故今頃になってこんなことになったのでしょうか。炭素-14はトリチウムと同様にガンマ線を出さないベータ核種なので測定が難しく、直接の測定をしてこなかったらしいのです。炭素-14は半減期が5730年という長半減期核種で、遺跡や出土品の年代鑑定に利用されている核種です。昔の焼き物やかまどの跡、木材などに当時の炭素が閉じ込められていて、それが現在まで保存されているとして炭素-14の減衰計算から経過時間（年）を推定できるのです。これはとても厄介です。こういう放射能が環境中に大量に放出されると、動物・植物に取り込まれ、長い時間の末にやがては世界中に拡散してすべての生命体にリスクを及ぼすからです。また、既存のALPSでは除去できない核種でもあるのです。

#### 5. トリチウムは危険な放射能

政府寄りの専門家は、トリチウムのベータ線はエネルギーが弱く、人体への影響が少ないなどと言っています。2020年2月12日の福島民友に「【風評の深層・トリチウムとは】眼前に「処理水」...77万ベクレル」という記事が掲載されました。～理科室のような分析棟で、担当者として取材に同行した資源エネルギー庁の木野正登廃炉・汚染水対策官が、約1リットルの処理水の入った容器を指さした。「これが処理水です」、トリチウム濃度は1リットル当たり約77万ベクレル。タンク保管されている処理水の平均濃度と同程度だ。担当者が容器からビーカーに流し入れた。記者は、東電所有の検出器を借りて水面に近づけ、処理水から放出される放射線量を測った。検出器の針はほとんど振れない。分析棟内の空間線量とほぼ同じ毎時0.04μSv/hだ。～これは茶番劇です。ベータ線は水でも減衰し、ビーカーのガラス壁を透過することはできません。借りた測定器がNaIシンチレーターだったら完璧です。この測定

器はガンマ線しか検知しないからです。無知な記者がエネルギー官僚に騙されたのか、もしかすると合作の茶番だった可能性もあります。

ガラスやプラスチックでも止まってしまうベータ線ですが、このトリチウム水を飲んだり、トリチウムで汚染された海水で育った魚を食べて、体内に取り込んでしまうと内部被曝をします。透過力が弱いので、トリチウムが取り込まれた細胞の周辺だけが局所的に被ばくをします。ベータ線のエネルギーは弱いといいましたが、生体内の構成分子の結合エネルギーは数eV（エレクトロンヴォルト）であるのに対して、トリチウムのベータ線は平均で5.7KeV、最大18.6KeVですから約1,000倍も強いので、化学結合がたくさん切れることとなります。

トリチウムの入った水（HTO）は、化学的には単なる水ですから体内に入っても、やがて尿や汗で排泄されるから問題ないといわれますが、そうでもありません。私たちの体を構成しているたんぱく質や脂肪、核酸は、主に炭素と酸素と水素がつながってできています。体内に入ったトリチウムは簡単にこの水素と置換反応を起こします。その結果として有機結合型トリチウム（OBT）となり、簡単には体外に排泄されなくなります。

遺伝子の本体であるDNAにOBTが組み込まれた場合は別の心配があります。DNAの長い二重らせん構造を支えている水素結合が切れて、DNAが切断される危険があります。トリチウムがベータ崩壊するとヘリウムになってしまうので水素結合ができないからです。

#### 6. トリチウムは生物濃縮する

トリチウムは水素と同じなので生物濃縮しないというのが原子力ムラ側の定説です。しかし、イギリスのヒンクリーポイント原発に近いブリストル海峡で行われた調査で、底生動物とイガイで17000Bq/kg、海草や底泥で400Bq/kgのトリチウムが検出されました。その85～91%は有機物に結合したトリチウムすなわちOBTでした（D. McCubbinら、海洋汚染学雑誌 Marine Pollution Bulletin 41(10), 2001）。

## 7. トリチウム汚染は病気の多発を招く

カナダは濃縮していない天然ウランを燃やす重水原発（CANDU 炉）を動かしています。炉内で重水素がトリチウムに変わるので、世界で最もトリチウム排出量の多い原発です。このため行われた調査で、オンタリオ州で小児白血病や先天性異常の多発が報告されています。

日本の原発でトリチウム排出量が最も多いのは加圧水型原子炉 2 基を動かしている玄海原発です。その周辺で明らかな白血病の多発が報告されています。ただし、原子力側からは、九州の離島や沿岸部ではウイルス性の成人 T 細胞白血病（ATL）が多く、それとの関連を疑うべきだとの指摘があります。

2007 年 12 月にドイツの環境省と連邦放射線防護庁が、「原発 16 基周辺の 41 市町の 5 歳以下の小児がん発症率の調査研究（KiKK 研究）結果」を公表しました。トリチウムの影響に特化した調査ではありませんが、原子力発電所周辺 5km 圏内で小児白血病が高率に発症しているとしています。これに対しては、ICRP 系研究者からウイルス性白血病の可能性などの指摘、反論があります。

国際放射線防護委員会 ICRP にはかつて内部被曝研究部門がありましたが、今では廃止されています。その初代委員長だったカール・モーガンは、「ICRP は原子力産業の支配から自由ではない・・・」（『原子力開発の光と影—核開発者の証言』昭和堂）と述べています。内部被曝に関する調査研究は極めて限られています。福島原発事故のような大事故が起きても政府は一向に調査しようとしないうちに 10 年が過ぎようとしています。

## 8. 海洋放流も簡単ではない

タンク内に貯蔵されたトリチウムの総量は 860 兆 Bq ですが、原子炉建屋内に存在する汚染水中のトリチウムを加えると 2000 兆 Bq を超えます。このうちとりあえず、放出を予定しているのはタンク内の 860 兆 Bq です。事故以前の BWR のトリチウム放出量管理目標値は 1 基当たり 3.7 兆 Bq/年なので、第一原発 6 基分で 22 兆 Bq/年の排出権があると考えているようです。海洋放出の場合のトリチウムの

告示濃度限度（水 1L 中 6 万 Bq）に対して、「地下水バイパス」及び「サブドレン」の運用基準（水 1L 中 1,500 Bq）を参考に検討するとしています。この計算だと、毎秒 0.5 トン放流で 30 年間かかることとなります。

## 9. 海洋放流はロンドン条約違反

経産省によって全国で開催された説明会で、汚染水を遠く外洋まで運んで放流すればよいという意見が出たとき、政府側がロンドン条約に違反するからできないと答えたことが報道されました。ロンドン条約は、海洋汚染を防止するための国際条約です。この条約名を聞くと、し尿の外洋投棄のことを思い出します。愛知県にはし尿投棄船の母港が 2 か所ありました。津島市の日光川河口と、西尾市の平坂入江です。愛知県内だけでなく、遠く京都などからも運ばれてきていたようです。この船は、伊勢湾口を出て、黒潮本流に投棄していたのですが、燃料代をケチって近場で栓を抜くというような不祥事もあり、何度か摘発されていました。この外洋投棄は、ロンドン条約で制限され、ついには全面禁止になって途絶えました。外洋投棄がだめなものを、沿岸から放流するなら良いというのは全く変な話です。沿岸でやってはいけないから、外洋だけ例外として許されていたのです。ロンドン条約で海洋投棄が禁止されている放射能汚染水を岸から流してはいけません。

## 10. そもそも福島原発にこれ以上の放射能排出権はあるのか

放射能量をヨウ素換算した INES（国際原子力指標尺度）評価によれば、福島第一原発事故で東電は 90 京 Bq（=900 ペタ Bq）（1 京=1 万兆または 10 ペタ）の放射能を放出して太平洋と 17 都県の陸地を過酷に汚染しました。世界中の原発が通常運転時に排出している全ての放射能の合計値をはるかに超える放射能を出してしまったのです。その事故炉が事故前の基準に則って年間 22 兆 Bq のトリチウムを流してよいなどと主張することが許されるわけがありません。まして、ストロンチウム-90 などの核種を告示限界濃度以内なら流してよいなどと言えるわけがないのです。

# 2020 東北支援－援農と放射能測定

大沼章子



2012年から毎年6月に実施してきた東北支援と放射能測定ですが、今年は、COVID-19下で、出発一週間前まで決められませんでした。C-ラボはCOVID-19下であっても、三密を避けながらも通りの測定を心がけていましたから、例年通りの実施を願っていました。さて、4/7以来の新型コロナウイルス感染症緊急事態が5/25に解除されました。この時点で、感染者数は、全国で16581名(死者数830名)、愛知が506名(34名)、福島が81名(0名)。結局、援農作業は極く短期とし、放射能汚染現状調査を目的に、福島県の郡山市・相馬郡飯館村・南相馬市を訪問しました。

日程：2020年6月13日(土)～18日(木)、参加者：全日2名、5日間1名、総計17人日

援農作業：水稲育苗箱やハウス内ビニール苗床の片付け、夏野菜の植え付け準備

空間放射線量率測定：サーベイメータ(ALOKA TCS-172B)による測定を郡山市の有機農家生活空間にて実施。

ホットスポットファインダー(日本遮蔽技研社製HSF)による測定一飯館村内道路や南相馬市から双

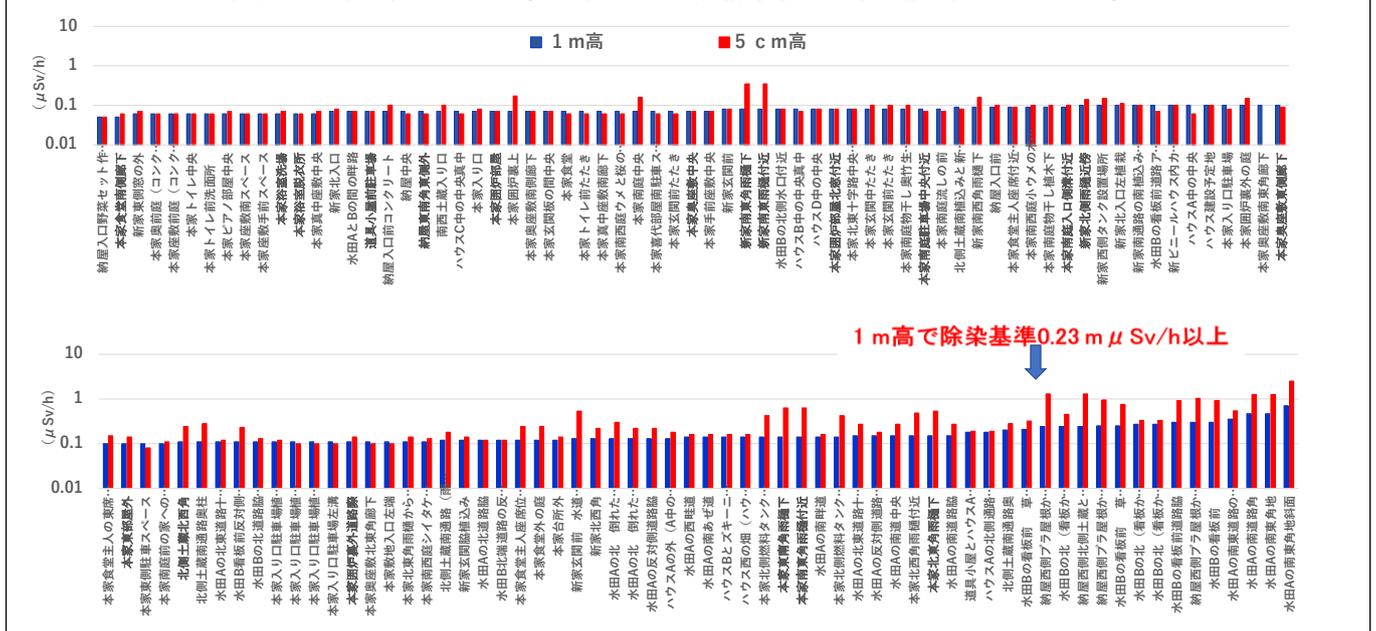
葉郡富岡町までの国道6号線及び県道34号線・35号線上を車載計測(結果は車外1m高の数値に換算)。飯館村内の村役場、道の駅までい館、野手上山などを歩行にて計測(主に1m高、要所で5cm高)。

放射性セシウム測定：定点1か所(郡山市の山畑ワラビとその生育土)、郡山市(小松菜・赤カブ・大根・あく灰各1件、土壌2件)、飯館村(ワラビ・そば粉・白玉粉・野手上山頂の松ぼっくり・グミ各1件、野手上山登山道の土3地点6件、ジャガイモ実験土2件)、南相馬市(淡竹とその生育土1件、サンショの実・ウメ・木灰・畦道土・畑地土各1件)を採取。NaI核種分析装置(ALOKA 社製 CAN-OSP-NaI)にて測定。

測定結果概要：図1に郡山市の有機農業家の生活空間における空間放射線量率の定点測定結果を示しました。年間1mSvの被ばく線量に抑えるための除染は原発事故から5年後に実施されました。現在も、除染基準0.23 μSv/時(1m高)を超える観測点が約10%存在します。また、1m高の線量率は下がったものの、5cm高では相対的に高くなっている場所もあります。雨水によって放射性セシウムが運ばれ

図1 福島県郡山市の有機農業家生活空間の空間線量率測定結果2020.06

物理的減衰と2015年秋の除染によって、全体には低減していたが、屋根から雨水の落ちる所や、雨水のたまりやすい所は依然として高い傾向にあった。1m高に比して、相対的に5cm高の値が高くなっていた。



て来るからです。雨樋下も含めて雨水のたまりやすい場所には今も注意が必要です。最大値は農道脇のホットスポットで、1 m 高で 0.70  $\mu\text{Sv}/\text{時}$  (5 cm 高で 2.5  $\mu\text{Sv}/\text{時}$ ) でした (図 2)。

図2 農道のホットスポット



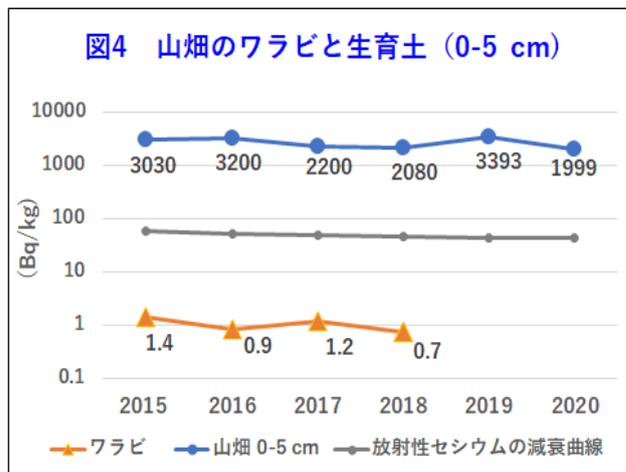
HSF による空間放射線量率測定は、飯館村内は村民の伊藤延由さんの案内で、南相馬市から JR 常磐線富岡駅までの道路等の測定は、避難先である岐阜県から南相馬市に戻られたばかりの K さんの案内で測定しました。測定結果を表 1 (末尾) にまとめました。飯館村内の要所での測定値の最大値は、県道 399 号線の長泥地区入り口の閉鎖ゲート前周辺で、1.88  $\mu\text{Sv}/\text{時}$  でした。また、国道や県道など公道上での測定値の最大値を見ると、飯館村内では同じく県道 399 号線の長泥地区入り口周辺で、0.89  $\mu\text{Sv}/\text{時}$  でした。

図 3 (末尾) に、南相馬市から JR 常磐線富岡駅間の測定結果を示しました。阿武隈山地の裾野を走る山麓線県道 35 号線沿いで福島第一原発から北西約 10 km の路上で、5.3  $\mu\text{Sv}/\text{時}$  でした。国は年間 20 mSv の地域への帰還政策を推進していますが、その場合の除染基準は 3.8  $\mu\text{Sv}/\text{時}$  です。通過が許されているとは言え、立ち止まるのも避けるべき場所です。時速 40~50 キロで走行する車での測定ですから、100 m 程度の区間の平均値として計測されています。これを仮に徒歩で測定したら、もっと高い数値が計測されたことでしょう。なお、図 3 では広域のため読みとれませんが、同じ道路上を計測していても、除染されている所とされていない所がはっきり分かります。C-ラボ HP に掲載しますので、確認してください。

採取試料の放射性セシウム濃度は、すでに C-ラボ HP に掲載済みです。郡山市の栽培野菜については検

出下限値(1 Bq/kg 前後)未満でしたが、飯館村道の駅の蕎麦粉 2.3 Bq/kg、南相馬市のウメ 2.7 Bq/kg、淡竹 4.4 Bq/kg、山椒の実 22 Bq/kg、そして飯館村野手上山登山道沿いワラビ 206 Bq/kg と、山野もしくはその近くで採取されたものほど、検出率が高く、また、野生種については高濃度に検出される傾向にあることが確認されました。しかし、定点観測している郡山市の山畑のワラビは、図 4 に示したように昨年从不検出です。ワラビ生育土の方は、濃度変動はありながらもほぼ放射性セシウムの物理的減衰曲線に沿っていることがわかります。下層への移動も調査していますが、データ数を蓄積してからの報告にしたいと思います。土壌については、最高値のみ報告します。郡山市の竹藪で 2500 Bq/kg、南相馬市の畦道

図4 山畑のワラビと生育土 (0-5 cm)



土で 1600 Bq/kg、飯館村では伊藤さんがジャガイモの放射性セシウム移行実験を実施した自然土で 46000 Bq/kg、山野の代表である野手上山頂下 50m の所で 39000 Bq/kg でした。飯館の山野の多くは、指定廃棄物 (8000 Bq/kg 超) 地帯ということです。これら、土壌汚染とともに、今後、継続的に注意をしていきたいのは、灰です。今回も、南相馬市の薪灰で 10000 Bq/kg、郡山市で売られていたあく灰で 14000 Bq/kg でした。あく灰は主にワラビのあく抜き用に売られていたものですが、灰はいろいろな用途に使用されます。灰は性状が微粉末であるため、取り扱いに注意が必要です。また、貯蔵場所も放射線防護の三原則 (遮蔽・距離・時間) を基に注意するなど、配慮が必要です。灰は、山野草・野生獣肉と共に「測って判断」が求められる品目の一つです。

#### 最後に

出発直前まで、COVID-19 下での訪問を迷った郡

山市の有機農家中村家でしたが、今年も訪問できたこと、幸運で感謝しかありません。今年こそ実施しようと決めていた農道のホットスポットの原因究明調査は出来ませんでした。中村ファミリーの無事を直接確認し、放射能汚染の経年変化も追うことが出来ました。援農は、同行の藤本さんにお任せでしたが、田んぼで転んで泥だらけというハプニングも楽しんでいる様子に拍手です。

飯館村民である伊藤さんの強い懸念の一つは、村内は除染が実施された所でも、一步そこから外れると、直ちに  $0.23 \mu\text{Sv}/\text{時}$  を超える高線量エリアであるという実態です。飯館村は福島原発事故後 6 月末に全村避難となり、2017 年 3 月末に大部分で避難解除となりました。現在は長泥地区のみ原則立ち入り禁止の帰還困難区域ですが、為政者は 2023 年の全村解除を目指しています。今年 9 月現在の人口は、村内 1472 名、村外 3835 名、不明 3 名、合計 5310 名 (2011 年

3 月は 6509 名) です。飯館村は、本来標高 400 から 500 m の阿武隈山系の一角に位置した自然豊かな高原地帯です。しかし、村内を回ると、「復興」を名目にしたお金がどんどんつぎ込まれている様子がひしひしと伝わってきました。村役場、いたてスポーツ公園、までの里のこども園、飯館小中学校、道の駅までい館とその裏手のふかや風の子広場など、新しい豪華な建物が次々と建てられて、違和感を放ちます。なにかしら施設がないと来訪してもらえないという相変わらずの箱もの主義で子どもたちをも呼び込もうということでしょうが、施設内から一步脇にそれれば空間放射線量率が高く、そこには必ず高濃度な放射性セシウムの沈着があります。粉じん等にもなって、子どもたちの体の内外からの放射線被ばくの原因になります。いかにも景色がよく、空気も美味しそうなのですが、ここに、子どもたちが集うのは避けたいと思いました。

表1 HSFによる空間放射線量率測定結果

測定日：2020年6月15-17日

測定場所：福島県相馬郡飯館村、南相馬市、双葉郡浪江町・大熊町・富岡町

測定場所	1 m高 ( $\mu\text{Sv}/\text{時}$ )	5 cm高 最大値 ( $\mu\text{Sv}/\text{時}$ )	測定場所	1 m高 ( $\mu\text{Sv}/\text{時}$ )	5 cm高 最大値 ( $\mu\text{Sv}/\text{時}$ )
飯館村 道の駅までい館前	0.05-0.13	—	飯館村 野手上山登山口 (508 m) から山頂 (628 m) へ	0.51-1.55	2.65
飯館村 役場前	0.06-0.16	—	JR常磐線双葉町駅・駅舎周辺	0.04-0.34	0.81
飯館村 までの里こども園入り口付近	0.06-0.30	1.22	JR常磐線大熊駅前	0.22-0.42	—
飯館村 市民園ふるさと前周辺	0.28-0.67	1.02	JR常磐線富岡駅・駅舎	0.02-0.11	—
飯館村 あいの沢四阿	0.28-0.84	—	飯館村内道路	0.09-0.89	—
飯館村 蕨平地区仮設焼却施設周辺	0.10-0.86	—	南相馬市から国道6号線を南下してJR富岡駅から県道35・36号線を北上して戻る	0.04-5.30	—
飯館村 県道399号線長泥地区入り口閉鎖ゲート前	0.62-1.88	—			

図3 20200617空間放射線量率 (車中計測・1 m高の線量に換算)  
南相馬市から国道6号線を南下し、JR富岡駅から県道34・35号線 (山麓線) を南相馬市まで戻る  
 **$0.04-5.3 \mu\text{Sv}/\text{h}$**



# 高レベル放射性廃棄物の処分問題

## ★核廃棄物のゆくえ

大沼淳一

原発はトイレ無きマンションと言われながら次々と建設され、運転に伴って発生する使用済み核燃料が大量に蓄積し、貯蔵用プールの空きスペースは残り少ない。使用済み核燃料を再処理してプルトニウムを取り出し、それを再び燃料として使おうという核燃サイクルはすでに破綻し、世界中で撤退が相次いでいるが、日本政府は撤退できないでいる。高レベル廃棄物とは、プルトニウムを抽出した後の残渣で、恐ろしい高濃度の放射能が含まれ、約 10 万年経たないと燃やす前のウランの放射能レベルに戻らない。人間の建築物の歴史の中で最も長く遺っている遺跡群でもせいぜい 5000 年程度であって、10 万年後まで放射能を封じ込める建築物などありえない。そのようなものを遺してしまったこの時代は、後世の人から最悪の暗黒時代だったと指摘されるだろう。

今すぐに全原発の運転を停止し、六ヶ所村の核燃再処理工場を閉鎖しても、すでにフランスやイギリスに再処理を委託した分と、東海村の再処理工場で発生した高レベル廃棄物が現存し貯蔵施設において水で冷やされ続けている。この物騒な代物を深い地層に埋めるという計画が世界中で検討されているが、まだ 1 か所も成功していない。わずかにフィンランドだけがオンカロに地下処分施設を建設したが、廃棄物はまだ収められていない。

## ★管理方策を検討するためには

安藤直彦

高レベル廃棄物の処分問題は原発所有国の共通の問題であり、地層処分の方針は各国共通であるが、方針決定のプロセス、経過措置は国によって異なる。スイスは長期安全性と回収可能性を融合させた「監視付き長期地層処分」を、カナダは「適応性のある段階的管理」で最終的に地層処分を目指す（達成までに 300 年間）。

こうした中で参考になるのはオバマ前大統領が当

日本政府（経産省資源エネルギー庁）と NUMO（原子力発電環境整備機構）が全国で地層最終処分場を引き受けてくれる町を探しているが、どこも立候補していなかった。わずかに 2007 年に高知県東洋町長が独断で名乗りを上げたが、町民から反対運動がおこって取り下げ、次の選挙では落選して話は終わった。それから 13 年後の本年、突然、北海道の寿都町と神恵内村が名乗りを上げた。立候補の動機は単純で、文献調査だけで交付金 20 億円が降ってくるからである。東洋町と同様に、すぐさま住民の間から反対運動が始まっているが、町長と村長は強気で、このニュースが出る頃には応募の手続きが強行されそうである。裏で経産省・資源エネルギー庁が画策しているものと思われる。

地層最終処分の研究は岐阜県瑞浪市と北海道幌延町で開始されている。前者は 2002 年に発足した超深地層研究所である。発足の当初から、そのまま最終処分場に移行するのではないかと危惧した地元の人々による監視活動が続けられ、NUMO や岐阜県への頻繁な質問状や要請書提出が行われてきた。その甲斐あって、岐阜県知事が動き、当初の約束通り深さ 500m の試験坑の埋め戻しが進行中である。これに対して、幌延町の施設は今年になって研究の延長計画が承認され、終わりが見えない。

時ユッカマウンテンでの処分をネバダ州の反対で撤回したときに参考にしたブルーリボン委員会の最終報告書で、日本の処理問題についても参考になる。以下要約である。

1. 同意に基づく：影響を受ける自治体が決定をする機会を得て地元の主導権を維持。
2. 透明性：全ての利害関係者が重要な決定を理解しそのプロセスに関わる機会を得る。

3. 段階的:重要な決定が前もって確定されず、過程で再考され、必要に応じ修正。
4. 適応性:プロセスに柔軟性があり新たな情報や技術的、社会的、政治的展開に反応して決定。
5. 基準が明快で科学に基づく:すべての施設が安全及び環境の保護に関する厳格かつ客観的で一貫性をもって適用される基準を満たしている確信を公衆が持つ。
6. 実施主体と受入れ地元側との間のパートナーシップ契約または法的に強制力のある協定によって規律される。

日本が特に参考にすべきは 2項、3項である。核保有国のほとんどは何らかの形で公衆との対話により方針を決定している。日本も説明会を開いているが説得が目的であるように感じられる。また多くの

国が将来の変更可能性も備えている。問題はスイスのキュンツィ氏が指摘するように「福島原発事故の後、政府や公共機関に対する国民の信頼が大幅に低下した」ことである。事故後にも原発推進政策を維持し続ける姿勢の中で処分地の選定は困難であろう。

#### 参考文献

- 1) 諸外国における高レベル放射性廃棄物の処分について (2019 資源エネルギー庁)
- 2) [https://doi.org/10.3327/jaesjb.54.12\\_804](https://doi.org/10.3327/jaesjb.54.12_804) ブルーボン委員会報告書
- 3) [https://www.swissinfo.ch/jpn/核のごみ\\_放射性廃棄物処分-スイスで失敗した教訓を日本で生かそう/44810578](https://www.swissinfo.ch/jpn/核のごみ_放射性廃棄物処分-スイスで失敗した教訓を日本で生かそう/44810578) (キュンツィ経済協力開発機構原子力機関 (OECD/NEA))

「だまっちゃんおれん原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜」原告団より皆様へ

## 名古屋高等裁判所での控訴審に向けて

私は、だまっちゃんおれん原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜原告団 団長の岡本早苗と申します。

2013年6月に名古屋地裁にて原発事故による被害の賠償を求める提訴をした結果、2019年8月、国の責任は認めず、東京電力の責任も慰謝料増額につながる悪質性はなかったとして原賠法上の無過失責任に留めるという判決を言い渡されました。

判決後9月に、7世帯23名で新たに原告団を結成し、被曝を避ける権利・脱原発・被曝防護を掲げ、「だまっちゃんおれん原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜原告団」として控訴審をたたかって行く決意をしました。

2020年8月14日に、だまっちゃんおれん弁護団より控訴理由書を裁判所に提出しております。

私たちが控訴審で追及したいことは、福島原発事故は決して終わっていないこと、私たちが原発故

による無用な被ばくを我慢しなければならない理由はないということです。国が定めた年間追加被ばく線量の20 mSvは、被ばくの実態を見えなくさせる為だと言わざるを得ない基準であり、到底容認できることはありません。私たちは、原発事故によって、すでに本来ならしなくてよかった無用な初期被ばくをしました。これ以上の被ばくを避ける権利が私たちにあります。国や東電は、原発事故により住民が被ばくしても明らかな健康被害に直結していないとして、被ばくの影響はなかったとしますが、それは誤りだと明らかにしていきます。

また、控訴理由書の中身として、日本の原発政策は核兵器の潜在開発能力と密接に関連して推し進められ、それが故に原子力発電の安全性の軽視につながり、原発推進政策をどこまで行っても撤回しない理由となっていることに言及します。



原判決による、国の責任を認めなかった理屈のおかしさも主張していきます。国の持つ規制権限を行使する前提となる予見可能性は認められています。予見可能性の時期が2008年となっています。だまっちゃんおれん訴訟としては、国が長期評価を発表した2002年8月には予見ができたということを目指して行きます。これに対し、2002年8月に保安院は、長期評価は考慮しないという対応をしましたが、これは東電が対策を免れるために保安院と結託して行った対策放置であり、東電に対して必要な規制の手を緩める行為であることを追及して行きます。同年2月には土木学会から出されていた津波評価技術津波シミュレーション、そして同年7月に文科省地震調査研究推進本部から出された長期評価により津波の可能性は十分予見できたはずで、2002年8月にはO.P+10mを超える津波を予測でき、規制権限をすぐにでも行使すれば事故は防げた」と主張して行きます。

万が一にも事故を起こしてはならなかった原子力発電所に対して、安全を確保するための規制権限を持つ国も、事業者の東電も、安全性を軽視し続け、事故を起こさないという前提からかけ離れた実態で稼働を続けたことが、福島原発事故を引き起こしたのだと裁判所に訴えて行きます。

さらに、原告それぞれの避難元の土壌測定とホットスポットファインダーによる空間放射線量率測定をC-ラボさんに行っていただき、自分たちの事故前の生活と照らし合わせ、今もなお被害を受ける状況が続いていることを明らかにします。裁判の中では国の定めた特措法放射性指定廃棄物基準の8,000 Bq/kg や放射線管理区域の表面線量基準40,000 Bq/m<sup>2</sup>すら守られていない状況となっており、決して福島原発事故は終わっていないと主張して行きます。

そして原発事故により私たち原告の奪われたものは人生丸ごとであること、それは憲法13条、25条に保障された権利の侵害だと主張してまいります。

以上のことを原告団・弁護士と共にしっかりと追及し主張して行きたいと考えています。

原発事故の加害は今も続いており、誰も責任を取ることなく被害者が置き去りにされています。

皆さま、どうか、原発事故は終わっていない、と私達と一緒にこの訴訟をたたかってください。

裁判は年間100万～150万円の訴訟費用がかかります。活動資金も含むと200万円を超えるとも言われており、その資金を負担するのは、避難者として生活して行くのに精一杯な原告には難しい状況です。どうか皆様の更なるご支援ご協力をお願い致します。

カンパお振込先：だまっちゃんおれん原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜原告団

ゆうちょ銀行：12060-21759191 他行からのお振込：店番 208-普通預金-2175919

## スタッフレポート

### 「太平洋セメント藤原工場（三重県いなべ市）周辺の土壌放射能測定と工場敷地境界の空間放射線量率測定」

阿部里香

この調査を考えたのは、私たち家族のいなべ市への移住検討がきっかけでした。同市は自然が豊かで、のびのびと子育てができる環境だと思います。しかし、福島原発事故後、太平洋セメントの大船渡

工場（岩手県）で震災瓦礫が処理され、藤原工場、津久見工場（大分県）でも受け入れが検討されました。いなべ市と同社に再確認したところ、藤原工場では結局瓦礫を受け入れなかったとのことでした

が、最近、原発事故で出た指定廃棄物などを誤って移動させた、というようなニュースを目にするので、紛れ込む可能性もあり、実測しないと現実は分かりません。これから除染土の再利用も大きな問題となってきますから、バックグラウンド測定として平常時の数値を把握しておくことも大切です。↗

風下 1 km と 3 km 地点、風上 1 km 地点で土壌を採取するとともに空間放射線量率を測定しました。結果は下記の表のとおりです。（空間放射線量率は 3 回計測の平均値。使用機器は HORIBA 社製 Radi。土壌は、ALOKA 社製 CAN-OSP-NaI にて測定。）

	土壌放射能性セシウム (検出限界)	空間放射線量率 (地上 1 m)	空間放射線量率 (地上 5 cm)
風下 1 km 地点	5.9 Bq/kg (検出限界 1.65 Bq/kg)	0.046 $\mu$ Sv/時	0.049 $\mu$ Sv/時
風下 3 km 地点	N D (1.28 Bq/kg 未満)	未計測	未計測
風上 1 km 地点	N D (1.43 Bq/kg 未満)	0.058 $\mu$ Sv/時	0.057 $\mu$ Sv/時

風下 1 km 地点で Cs-137 が 5.9 Bq/kg 検出されましたが、このレベルでは Cs-134 が減衰して検出されなかった可能性があり、原発事故由来かどうか判断できません。またこの程度の汚染は、大気圏内核実験の結果として事故前から各地で確認されていたレベルです。事故由来の深刻な汚染はありませんでした。

実際に土壌採取から測定までを行い、いかに大変な作業であるかが分かりました。深さ 0~5 cm の土壌をふるいにかけて、1 L の牛乳パックいっぱい詰めて持ち帰ります。C-ラボでの測定では、隙間ができないよう慎重に容器に詰め、重さを測り、測定器の調整をして 1200 分の測定にかけ、やっと結果が出ます。これを全国の多数の地点で市民が行い、「みんなのデータサイト：図説・17 都県放射能測定マップ+読み解き集」としてまとめたのは、大変な労力であったと感じました。同時に本来であれば国がやるべきだったと、理不尽さに憤りを感じました。

工場敷地境界のホットスポットファインダー (HSF) 測定は、天候に恵まれ、有意義な一日となりました。同行したのは息子 (3 歳) と大沼夫妻です。線量は概ね 0.02~0.09  $\mu$ Sv/時。石灰岩質の藤原岳の方へ足を踏み入れると、線量が下がりました。途中、線量が少し上がり、見回すと花崗岩でできた大きな忠魂碑が建っていました。HSF を近づけると、0.2  $\mu$ Sv/時まで跳ね上がりました。鉄柵越しに工場敷地内を覗くと、産業廃棄物運搬トラッ



クがひっきりなしに往来し、その数に驚きました。現在セメント工場は、廃タイヤや汚泥、廃プラスチックといった産業廃棄物を燃料や原材料として利用し、産廃処理場の役目も担っています。原発事故から 10 年が経とうとしている今、残念ながら国民の関心が薄れていると感じます。そのタイミングで、放射能汚染廃棄物が搬入されることがあってはなりません。継続的なモニタリングが必要です。

測定後は、同工場 (当時は小野田セメント) を相手取ったカドミウム汚染訴訟で、1960 年代から 1970 年代にかけて原告として闘われた夫妻を訪ね、話を伺いました。養豚業を営まれていた夫妻は、セメント粉塵公害と闘いながら、自らは悪臭などの公害を出さないよう努力を重ねられました。大沼さんによると、藤原岳に登るために三岐鉄道に乗って終点・西藤原駅に近づくと列車が小野田セメントの工場の中を通るのですが、当時は煙突から粉塵を大量に含んだ煙がもくもくと立ちのぼり、樹木や

地面にはねずみ色の粉塵が分厚く降り積もっていたそうです。自治体（藤原町）と同社の関係が今よりずっと強固で、まさに企業城下町だった時代に、また地元住民の間の関係性が都会より濃厚な地域において、声を挙げた夫妻の勇気と意志、に感銘を受け

ました。そのような方々のおかげで、今の環境があるのです。

様々な学びのある測定となりました。これからも、継続的にモニタリングを続けていきたいと思います。

～2020 東北ツアーに参加して～

## 中村さんちの農業体験



藤本志津子

6月13日8時に大沼夫妻と名古屋から出発、途中霧のため視界の悪い時もありましたが雨の中でもスムーズに2時半に郡山の中村家に到着。

少し休憩の後、稲の苗床のハウスに章子さんと行きました。そこで4～5年前から中村さん宅で農業研修をしている大沢さんと一緒に三人で水稻育苗ケースを洗って倉庫に片づける作業をしました。

今年はケースにこびりついた稲の根っこをきれいにとってくれる機械が新しく入っていてとてもスムーズに作業が進みました。苗の根っこがびっしり絡まっているケースを洗って一輪車で倉庫に運ぶのですが、いっぱい積み込み過ぎて、私も章子さんもひっくり返してしまい、欲張って却って手間取ってしまいました。千枚もあるので大変な作業です。

二日目は雨があがったので大沼夫妻は測定に、私は田んぼで大沢さんと補植をしました。田植え機では四方の端に植えこぼしがあるので、手作業で田の中に入って苗を挿していきます。四隅は特に挿すところが多くて、中に入って挿していたら足が絡まって前に転んでしまいました。その後も何列か抜けているところがあり、中に入って足がまたもつれて後ろ向きにどっぷりと田んぼの中に転んでしまいました。着替えに帰りますか?と言われましたが、また転ぶかもしれないのでそのまま続けることにしました。(田んぼの中は気持ちがよくてさほど気にならずに続けられまし

た)。10時半になってジュースとお煎餅をいただき、あぜ道で座って一休み、コロナの影響で外に出る機会が減ったので昔のドラマ（ルーキーズやウォーターボーイズやごくせん）を見て楽しんでいるんですよと話をする、なんと大沢さんはウォーターボーイズの映画にスタッフとして現場にかかわっていたそうです。水中でカメラを持って撮影されていたとか・・・ミーハーな私は興味津々に妻夫木聡、玉木宏のことを聞いてしまいました、スタッフには玉木宏が人気で、二人ともいい人だったそうです。

午後からはハウスで収穫の終わった白菜や小松菜などの野菜を片づけました。アカザ（雑草）は根が深くて抜き取るのに力が要って大変でした。その後苗床のハウスでビニールの片づけを早めに終わって、地元の御霊櫃峠温泉に大沼夫妻と大沢さんで行って汗を流してさっぱりとしました。

今回で二回目の農業体験ですが、家庭菜園とは違い何日も続く作業は体力も精神力もいる、農業は都会育ちの私にはハードルが高いようです。そして先祖から大事に受け継がれた田んぼや畑が放射能で汚染された農家の人々の気持ちははかりしれないものがあるでしょう。元のように安心な状態に早く戻ることを願っています。

そしていつも美味しい食事を作って下さる喜代さん、お嫁さんありがとうございます。

それにしても、アカザ（雑草）は根が深くて力仕事でした。

8月からCラボにお邪魔している山田と申します。

Cラボの活動が、平日の水、木、金との事で生憎平日は仕事のため、なかなか測定などのボランティアとして活動することが難しいのですが、運営委員会への参加をお誘いいただきましたので、毎月来られるときに参加させていただく事にしました。

さて、私が市民測定所を知るようになった経緯ですが、結論から申しますと、立て続けに病気をし、何か環境が変わったと気づいたからです。

最初は気に留めるほどの症状ではありませんでした。例えば疲れやすくなった、酒に強くなり、深酒するようになった、感情(イライラ)が抑えられなくなったなど。しかし、次第に頻繁に下血し便器を真っ赤にしたり、健康診断で不整脈と書かれたり、子宮からの不正出血、異常な浮腫み、多汗、突然の頻脈や徐脈、大きいものでは重度の脱毛症を発症したりと、原発事故後4年が経ったあたりから頻繁に病院に掛かるようになりました。円形脱毛症の治療で、ステロイドパルスを行うため入院をした時、立て続けにこんなに病院に掛かるなど流石におかしいと感じました。今まで健康優良児で、風邪すら引かず、薬もほぼ飲むことはありませんでした。病院も、幼少期に骨折でギプスをして貰うために行った程度です。

その時、事故当時の内閣官房長官であった枝野幸男氏の言葉が浮かびました。「直ちに健康に影響はありません」。私は、その言葉を聞き、(それはいずれ健康被害が出るということ?)とっていました。

その頃日本中が大騒ぎでしたが、私は正直何が起きているのか、何が問題なのかも理解しておらず、原発?電源喪失?メルトダウン?と言う感じでした。それよりも津波で流されてしまった人々、家、この先どうなってしまおうだろうという漠然とした不安感がありました。

地震の混乱が続く中数日が経過した頃、枝野官房長官がテレビで記者会見を行い、原子力発電の仕組みすら理解していない私は、問題点が分からないまま、「直ちに健康に影響はありません」という発言だけがやけに印象に残り、頭に残ったのでした。

退院後、環境の核汚染に気づいた私は、主にTwitterで情報収集を始めました。これは余談ですが、使い始めて分かったのが、情報の裏どりをしないとデマもかなり多

いということ。酷いものでRAPTというカルト色の強いブログがあるのですが、熱心な信者が私に教えてくれました。「原発は水で発電しているから、核汚染などないんだよ」信者がしつこく付き纏ってきたので、原発は冷却水が必要だから日本では海沿いに建てられるんだよ、と伝えると、DMは途絶えました。

原発というのはあれだけ大きな施設なので、まず土建屋が儲かり、技術屋が儲かり、電力会社が儲かり(総括原価方式で、人件費や材料費など、全てコミコミのどんぶり勘定。値上げも簡単なので、政治家の天下り先に使われている)何か事故などが起こっても、主に自民党など政治屋からバックアップが受けられます。これは、原発を日本に輸入したのが自民党だからであり、また、レベル7の大事故を起こしながらも未だに原発を推進しているのも自民党だからです。

Twitterでも、政府に有利な発言をさせる組織があり、政府に都合な真実は片っ端からデマ認定をされ、言論封殺が図られています。

何より私が大問題だと感じているのは、日本のプルトニウムの保有量。2016年時点で約47トンあり、原子爆弾6,000発分のプルトニウムが日本に保管されています。ここで、非核三原則はウソなんじゃないかと疑うようになりました。日本は、核の平和利用という建前で、これまで原発を54基も建てて商業利用をしてきましたが、同時に、核製造技術を保有してきたのではないかと、いつでも核爆弾を作ることが出来るのではないかと疑っています。

現在日本は、与党自民党により憲法改正を強く推進しており、戦争へ一歩一歩進んでいます。全ては繋がっているように感じました。

日本に原発を輸入したのは自民党ですが、事故当時野党だった自民党は、与党民主党が提案した大連立を蹴り、国民を見殺しにしました。今もまた、汚染地へ被災者を無理やり呼び戻そうとしています。

まだ、2011.3.11から何一つ終わってなどいないと感じています。

私はこれからも、原発事故の収束を見守り、一国民として、監視の目を厳しく持つていくつもりです。

## C-ラボ9周年報告会のお知らせ

日時： 2020年11月29日（日） 13時半～  
場所： 名古屋市中小企業振興会 吹上ホール 第7会議室  
記念講演： 講師 アーサー・ビナード氏（詩人・絵本作家）  
参加協力金：800円



（アーサー・ビナード氏）

\*ZOOM 配信もあります。詳しくはチラシ、ホームページをご覧ください



### 読み解き集がバージョンアップ!

原発事故から10年。今もなお、日本は「原子力緊急事態宣言」発令中です。「政府がやらないなら市民の力で測ろう」が生んだ市民による真実のデータ集が、増補版として新しく登場しました。発売後に得られた知見や、読者からの要望を基に、最新データを解析しています。

すでにお持ちの方も是非お手に取って下さい。稼働の有無を問わず、54基もの原発、さらに大量の核廃棄物の中で暮していかなければならない私達には必携の書です。

C-ラボで取り扱っています。

☎ 052-836-3116 までお問い合わせください。



### <C-ラボへの寄付とボランティアのお願い>



C-ラボは皆さまのご寄付とボランティアで運営されています。よろしくお願ひします。  
銀行からは：(ゆうちょ銀行) 店名二一八 (預金種目) 普通 (口座番号) 5484719  
(口座名) 未来につなげろ・東海ネット市民放射能測定センター

<あとがき>

福島第一原発で日夜たまり続ける放射能汚染水を、政府は厄介払いするように海に放出する計画を急いでいます。そんな中でマスコミの対応が気になります。新聞でも「風評被害」を懸念する論調の記事が多くあり、「実害」について詳しく述べられることは少ないようです。今号は汚染水、さらに核廃棄物について大沼氏、安藤氏に書いて頂きました。正しい情報を得て政府の動向を見ていきたいと思ひます。(T)

未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター

住所： 〒467-0058 名古屋市瑞穂区関取町146 電話・FAX： 052-836-3116

開所日： 毎週水・木・金 11:00～16:00 (祝祭日休み)

E-mail： tnet\_sokutei@xg7.so-net.ne.jp